



遊 道 楽 歩
(雑 感)



真夏の芝刈り

長野 修二



目次

芝生との付き合いは、すでに 30 年を過ぎましたが、家を購入したときに張られていた芝が毎年元気に育ってくれています。

毎年やっていることはなんといっても芝刈りですが、夏場 7 月～9 月までは毎週でしょうか。

それでも今年は梅雨が長かったせいで 7 月は二週間に一回程度でしたが、梅雨明け後は毎週の作業になっています。

伸びること伸びること、すぐに成長します。

30 年育てていますが、犬ではありませんが、病気にもならず毎年元気に成長してくれます。

芝の管理は 3 月のエアレーションからはじまり、肥料巻き、さらに芝の目土入れとそれほど手間をかけているわけではありませんが、6 月を過ぎると急激にきれいに芝が張ってきて毎年青々とした芝生を堪能できますが、その分芝刈りの労力は相当なものとなります。

なんといっても芝刈りが一番きつい季節は真夏でしょうか。

ぐんぐんと芝が成長してくれますから芝刈りを逃れることはできません。

しかも、朝夕は芝が寝ており、芝刈りにむいておらずどうしても芝が立っていて比較的乾燥ぎみな真昼に芝刈りをするが多くなります。

芝生の面積がそれほど広くないのでリール式の手押し芝刈り機で簡単に芝を刈ることができますが、芝刈り機で芝を刈ると、どうしてもエッジ部分の芝が残りますからこの部分を芝用の芝ばさみでそろえてやる必要があります。

これは狭い庭でも座っておこなう作業となり時間がかかりますから苦勞します。

経口保水液や水分補給飲料などを飲みながら芝刈りをする事になり、麦わら帽子をかぶり首に濡れタオルを巻きながら 1 時間半ほどの作業することになります。

終われば、すぐにシャワーへ直行です。

さすがに、その夜はアッいう間に熟睡。

こんな過酷な環境でも芝を育てていたいのは、毎年きれいな芝生をみせてくれる芝のためでしょうか。

長い付き合いから生まれた芝との信頼関係ですかね。

植物との付き合いも犬との付き合いも長い間にできたお互いの信頼関係の上に、よきパートナーとして人生に彩を与えてもらっているようです。

芝生だけではありません。

我が家では、ハイビスカスやバラなど多くの植物と生活を共にしていますが、手間はかかりますが、その分きれいな花を咲かせてくれて人生のたのしみを味わせてもらっています。

肥料などお金もかかりますが、また私の手間を考えると無駄なことに感じることもあります。人生というもの、そもそも無駄の中の効用でできているものかもわかりません。

真夏の芝刈り

著 長野修二

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
